



# SUSTAINABLE DEVELOPMENT GOALS



キリスト教センター通信 2022年3月29日 第52号

## 「何をすればいいのですか」

キリスト教センター長 藤倉哲哉

地震をはじめ自然災害や気候変動による風水害などにより、家を失ったり避難生活を余儀なくされたりすることがある。紛争や戦争によって傷ついたり命を失ったり、家族や親しい人と離れて暮らさなければならないこともあり、ほかにも多くの人びとが貧困、飢餓、疾病、抑圧、差別、虐待をはじめ厳しい状況に置かれている。

一方で戦争や紛争、災害などが大きく報道されると「私にも何かできることはないか」と考えて、ボランティア活動への参加を申し出たり、義援金を寄付したり、あるいは困難にある地方の産品を購入して経済的に応援したりなど、多くの人びとがそれぞれのやり方で手を差し伸べる。

大学生に限らず中学生や高校生といった若い人たちにボランティア活動について、また最近ではSDGsについて話す機会がある。さまざまな社会課題とこれらに取組む意義について一緒に考えたり解決に向けた活動を紹介したりすると「では私たちは何をすればいいですか」と質問されることがある。その際、私は決して「勉強して下さい」と答えることにしている。私の言葉に「ボランティアしたい!」という表情の生徒には「まず勉強してどうすればよいか考えましょう」と続ける。そして「共感して寄り添いましょう」と、次にくる支援や行動が共感から始まることを説明する。

私たちの神戸国際大学では、20年以上前からアフリカの難病の子供たちを支援するチャリティーバザーとチャペルコンサートに学生・卒業生・教職員が取組んでいる。大学のキャンパスがある六甲アイランドの祭りに、ヨーヨー釣りや綿菓子で出展して地域の子供たちと遊びながら、またクリスマスにはチャペルでコーラスの歌声を聴きながら国際支援を楽しんでいる。

また、8月6日の広島原爆記念日には広島へ出かけて、大学生と附属高校の生徒が合同で核廃絶のための署名活動をしたり、千羽鶴を平和公園に奉納したり、教会で犠牲者・被爆者をおぼえて捧げる礼拝を10年以上も続けている。

「いま私たちには何ができますか」と問われたら「学生だから勉強しましょう」、「共感して寄り添いましょう」、そして「祈りましょう」と答えよう。祈りとは神さまや仏さまにお願いすることではなく、誰かに共感することであり、誰かに寄添うことなのである。そう、国際支援も、SDGsも。KIU神戸国際大学であなたも一緒に始めませんか。



## ウクライナのための祈り

正義と平和の神よ、  
わたしたちは今日、ウクライナの人々のために祈ります。  
またわたしたちは平和のために、そして武器が置かれますよう祈ります。  
明日を恐れるすべての人々に、  
あなたの慰めの霊が寄り添ってくださいますように。  
平和や戦争を支配する力を持つ人々が、知恵と見識と思いやりによって、  
み旨に適う決断へと導かれますように。  
そして何よりも、危険にさらされ、恐怖の中にいる  
あなたの大切な子どもたちを、あなたが抱き守ってくださいますように。  
平和の君、主イエス・キリストによってお願いいたします。  
アーメン。

ジャスティン・ウェルビー大主教  
スティーブン・コットレル大主教

## A Prayer for Ukraine

God of peace and justice,  
we pray for the people of Ukraine today.  
We pray for peace and the laying down of weapons.  
We pray for all those who fear for tomorrow,  
that your Spirit of comfort would draw near to them.  
We pray for those with power over war or peace,  
for wisdom, discernment and compassion to guide their decisions.  
Above all, we pray for all your precious children, at risk and in fear,  
that you would hold and protect them.  
We pray in the name of Jesus, the Prince of Peace.  
Amen.

Archbishop Justin Welby  
Archbishop Stephen Cottrell

